

2017 年度聖書の集い（第 8 回）

2018 年 1 月 17 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 285 番 「愛のみ神よ み前に立つ」
- 2、お祈り
- 3、聖書 ヨハネによる福音書 15 章 9 節～12 節
(新約聖書 198 ページ)
- 4、今日の内容

キリスト教のおまつり「⑧ 結婚式」

今月は「結婚式」を通して、キリスト教に触れていきたいと思えます。「おまつり」というと少し語弊があるかもしれませんが、聖書の時代には婚宴は一週間以上続く盛大なお祭りでした。また結婚式を「キリスト教式」でおこないたいという人も多く、そのような式に参列されたことがある方も多いと思います。



ではキリスト教の結婚式ではどんなことが大事にされているのでしょうか。ご一緒にみていきたいと思えます。

① キリスト教の結婚式の特徴

キリスト教の結婚式というと、日本語を片言で話す金髪の牧師を思い浮かべるかもしれませんが、しかし今回はそのような「結婚式場での式」ではなく、「教会で挙げる結婚式」についてお話したいと思います。

この教会でも二月の初めに結婚式があります。(教会では聖婚式と呼びます)。そして教会の結婚式の一番の特徴は、事前に勉強会をし、礼拝にも何度か参加しないと結婚式を挙げられないということです。

結婚とは何か、これからどのように歩んでほしいのか、単なるリハーサルではなく、「結婚する」という意味をみんなで考えて、お祈りをしながら準備をしていくのです。その中でお互いの思いを深めあっていきます。

② 聖書からみる結婚の意味

アダムとエバの物語で「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」と神さまは言います。つまり結婚の一番の目的は「共に生きる」ということです。しかしただ単に、二人だけ（あるいは家族だけ）で生きるではありません。

結婚式の中で、牧師が首にかけたストールを、新郎新婦が手をつないだ上から巻く場面があります。これは神さまが二人を祝福し、結び合わせてくださったという意味です。

結婚は決して二人だけの出来事ではありません。二人の間に神さまがいてくださるのです。苦しいときも、悲しいときも、そして喜びのときにも、神さまが二人と共にいて、導いてくださる。そのことを大切にしていきたいものです。

③ 結婚式の言葉から

- ・「～と結婚して夫婦となり、生涯その神聖な約束を守ることを願いますか」
「またこの女(男)を愛し、慰め、敬い、健康なときも病気のときもこの女(男)を守り、命の限りこの女(男)との結婚に忠実であることを願いますか」
✧ 楽しいときだけではなく、必ずそうするではなく願うということ
- ・(会衆に向かって)「二人がこの願いを全うすることができるように励まし、助けましょう」
「神の恵みによって、努めます」
✧ 会衆も一緒に結婚生活を見守る、神の恵みによって
- ・「わたしは今、神とその教会の名によってこの二人が夫婦であることを宣言します」
「神が合わせられた者を人は離してはならない」
✧ 結婚は神さまから与えられた恵み
- ・「常にみ言葉を学び、ともに祈り、困難のときには互いに励まし、悲しみのときには互いに慰め、喜びのときにはともに喜び、聖霊によって二人の心をみ心に添わせ、主の愛と平安のうちに過ごさせてください」
✧ これが互いに愛する（相手を心の底から大切にすること）ということ

<桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ>

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から